

佐藤陽一さん facebook から

(※児童自立援助ホーム南柏 ホーム長)

就学相談会を始めたころ、一人のお母さんが話してくれた。

「ふつう学級に行けることは、分かりました」

「障害の重い子もふつう学級で楽しく過ごしていることも、分かりました」

「受け入れてくれる担任がいることも、分かりました」

「子どもたちの関係は、保育園も小学校も変わらないことも、分かりました」

■

そんな話の後に、ポツリと言った。

「でも、逆らうってことですよね。」

「逆らうってことですよね」

「サカラウってことですよね」

□

一瞬、意味が分からなかった。

それから、「でもそんなの当然じゃん」って思った。

「子どもを分ける学校が間違っているんだから、親なら逆らって当然じゃん」って、思った。

でも、その言葉はずっと心の底に張り付いている。

「サカラウってことですよね」

ふつう学級の就学相談会、30年。

いまでも、一番の壁はそれだ。

子どもを分けることがいいなんて、誰も思っていない。

でも、巨大な力に、「さからう」ことは簡単なことではない。

昨日の判決は、そのことを突き付ける。

こうして、子どもを思う「親を脅す」判決。

□

でも、でも、それでも、「友だちといるときの子どもの笑顔」を、あきらめられない親もいる。

友だちと一緒に遊び、学ぶ笑顔と子どもの人生。

それをあきらめて、別の生き方をしろというなら、それが法律だろうが、裁判所だろうが、校長だろうが、教育長だろうが、逆らうしかないこともある。

あきらめられないのは、強さじゃない。

あきらめきれないのは、一度でも、この子の「その瞬間の笑顔」見てしまったから。

この子の願いが、聞こえるから。